

『真心からの捧げもの』

●本日の聖書箇所・第1サムエル1:20～2:21（新改訳第3版抜粋）

1:9 シロでの食事が終わって、ハンナは立ち上がった。そのとき、祭司エリは、【主】の宮の柱のそばの席にすわっていた。1:10 ハンナの心は痛んでいた。彼女は【主】に祈って、激しく泣いた。1:11 そして誓願を立てて言った。「万軍の【主】よ。もし、あなたが、はしための悩みを顧みて、私を心に留め、このはしためを忘れず、このはしために男の子を授けてくださいますなら、私はその子の一生を【主】におさげします。そして、その子の頭に、かみそりを当てません。」1:12 ハンナが【主】の前で長く祈っている間、エリはその口もとを見守っていた。1:13 ハンナは心のうちで祈っていたので、くちびるが動くだけで、その声は聞こえなかった。それでエリは彼女が酔っているのではないかと思った。1:14 エリは彼女に言った。「いつまで酔っているのか。酔いをさましなさい。」1:15 ハンナは答えて言った。「いいえ、祭司さま。私は心に悩みのある女でございます。ぶどう酒も、お酒も飲んではおりません。私は【主】の前に、私の心を注ぎ出していたのです。1:16 このはしためを、よこしまな女と思わないでください。私はつる憂いといらだちのため、今まで祈っていたのです。」

1:17 エリは答えて言った。「安心して行きなさい。イスラエルの神が、あなたの願ったその願いをかなえてくださるように。」1:18 彼女は、「はしための、あなたのご好意にあずかることができますように」と言った。それからこの女は帰って食事をした。彼女の顔は、もはや以前のようななかった。1:19 翌朝早く、彼らは【主】の前で礼拝をし、ラマにある自分たちの家へ帰って行った。エルカナは自分の妻ハンナを知った。【主】は彼女を心に留められた。1:20 日が改まって、ハンナはみごもり、男の子を産んだ。そして「私がこの子を【主】に願ったから」と言って、その名をサムエルと呼んだ。1:21 夫のエルカナは、家族そろって、年ごとのいけにえを【主】にささげ、自分の誓願を果たすために上って行こうとしたが、1:22 ハンナは夫に、「この子が乳離れし、私がこの子を連れて行き、この子が

【主】の御顔を拝し、いつまでも、そこにとどまるようになるまでは」と言って、上って行かなかった。1:23 夫のエルカナは彼女に言った。「あなたの良いと思うようにしなさい。この子が乳離れするまで待ちなさい。ただ、【主】のおことばのとおりになるように。」こうしてこの女は、とどまって、その子が乳離れするまで乳を飲ませた。

1:24 その子が乳離れしたとき、彼女は雄牛三頭、小麦粉一エパ、ぶどう酒の皮袋一つを携え、その子を連れ上り、シロの【主】の宮に連れて行った。その子は幼かった。1:25 彼らは、雄牛一頭をほふり、その子をエリのところに連れて行った。1:26 ハンナは言った。「おお、祭司さま。あなたは生きておられます。祭司さま。私はかつて、ここのあなたのそばに立って、【主】に祈った女でございます。1:27 この子のために、私は祈ったのです。【主】は私がお願いしたとおり、私の願いをかなえてくださいました。1:28 それで私もまた、この子を【主】にお渡しいたします。この子は一生涯、【主】に渡されたものです。」こうして彼らはそこで【主】を礼拝した。・・・

2:18 サムエルはまだ幼く、亜麻布のエポデを身にまとい、【主】の前に仕えていた。2:19 サムエルの母は、彼のために小さな上着を作り、毎年、夫とともに、その年のいけにえをささげに上って行くとき、その上着を持って行くのだった。2:20 エリは、エルカナとその妻を祝福して、「【主】がお求めになった者の代わりに、【主】がこの女により、あなたに子どもを賜りますように」と言い、彼らは、自分の家に帰るのであった。2:21 事実、【主】はハンナを顧み、彼女はみごもって、三人の息子と、ふたりの娘を産んだ。少年サムエルは、主のみもとで成長した。

●子供を授かる

当時のユダヤ社会では、女性が子供を産むことができないということは、神の祝福から除外された者として考えられていた。又、社会的にも、夫の死後には、生活の基盤を失う事を意味していた

●本日の説教のポイント

①真心からの捧げものは、“希望”の源として用いられる ※1:28

サムエル記 1～2 章には、後にイスラエルの歴史にとって欠かす事のできないサムエルの出生のいきさつと預言者としての召命が記されている。

ハンナにとって、その子サムエルを主に捧げるということは、母親としての喜びや夢、そして自分の将来の生活基盤を捧げる事を意味していた。しかし、ハンナは祈りに答えて下さった主に、誓願どおりにサムエルを捧げた。

当時のユダヤ社会は、靈的にも社会的にも腐敗し混迷をきわめていた。(士師記 19～21 章参照) その暗黒時代の中で、やがてサムエルはイスラエルの民に神の声を伝え、民を導く、素晴らしい指導者となるのである。サムエルは、イスラエルの民にとって、いわば荒野の中の道しるべ、暗闇に輝く灯ともいえる存在となるのである。

しかし、もし、ハンナが息子サムエルを主に捧げていなかったのなら、混迷の時代は続き、イスラエル史上最高の名君とも言えるダビデ王は存在していなかったかもしれない。

私達にとって、一生懸命に努力に努力を重ね、願いに願ってきた事柄を捧げるという事は、時に大変な葛藤や心に痛みをもたらすものである。

しかし、それを主に捧げる時に、サムエルが尊く用いられたように、主はそれをを用いては多くの方々を慰め、救う、希望の源として用いられるのである。

私達も、時にハンナのように自分にとって大切な事柄を主の為に捧げるものとなろう。主はそれを希望の源として尊く用いて下さる。

②真心からの捧げものに、主は大いに“報いて”下さる ※2:20～21

多くの涙の時を経て、祈りによって与えられた息子サムエルを主の為にささげたハンナに、主は顧みて、3 人の息子とふたりの娘を産むようになった事が記されている。

主の為に、私達は自分にとって大切な財産、時間、夢、そして、時にはハンナのように愛する家族さえも捧げるかのような時がある。

しかし、私達は忘れてはならない。私達の主は、罪人であった私達の為に、御子イエスキリストの命さえも与えて下さった方である。このお方に私達の大切なものをお捧げして報いが無いはずがない。

私達も、時にハンナのように自分にとって大切なものを主の為に捧げるものとなろう。主は私達にも大いに報いて下さる。

●聖書の約束 マルコ 10:29～30

イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、その百倍を受けない者はありません。今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け、後の世では永遠のいのちを受けます。

●主が喜ばれる事の為に、あなたは何をささげていきたいですか。

・時間、能力、お金、名誉、その他
